



里見八犬傳 拾六篇 卷二十八



13
3416
89

十六編五卷之内

二千八

松野 勝善院

南總里見八犬傳第九輯卷之二千八

東都 曲亭主人編次

第百卒音 一虜を挾々現八橋梁を断り
火緒を放々信乃戰陣を焼く

却説その時下總より國府臺の城に敵と俟り兩個の防禦使大塚信乃成孝
大飼現八信道、東六郎辰相杉倉武者助直元田税力助逸友等と共に義
通御曹司小俱一もろく十二月三日の未下刻臺の城に來り程の上總下總の路次
多て御士御民の催促の後れが漸次小附後者の中亦尠く初九千餘
名より一軍兵を加えて一萬二千を多しける。然而這國府臺より守城の頭
人真間井樞二郎秋季繼橋綿四郎喬深と喚做る者朝より士率を領て
城を出る。義通君と迎せられ義通則二天士並辰相直元逸友等と士率を

八犬傳九輯卷千八

○文樂堂藏

所河をうろ渉して找々其西不寄隊を待つとも敢敵地を犯さむらば勿論宿老
 御曹司お従ひまゐるて當城を守りおるべし我門西個の防御使は明日の風ゆへ河を
 渉きて找々敵を防ぐべしと議まゐるちゆく直元逸友秋季も春回梁も皆この議を
 可と稱へ俱辰相不薦めくゆへに而防御使の意見寔に其理あり我門先鋒
 ま欲まのく仰付させぬと請へ辰相點頭て目今天の議を所愚意も亦相同
 則雄兵五千とりて天士の隊不隸人杉倉田税而頭人天士不従て俱二陣不
 找むべし又真間井継橋而生の素より守城の頭人氣の姑且御曹司お従ひまゐるて
 後の加勢さへと云衆議既定まゐりて義通君らち防御使河をうろ渉して
 前岸不敵と待て我も亦旗を找めて俱不後陣不備ん候我身幼少るれども大江
 親兵衛の年兄も不這地の惣大将でもり候敵の旗なども見るをとも徒河
 容々々と這一城を籠り在ん本意をまゐと怒る如く宣へ辰相の河とならうら

答難く速く信乃と現八を見えりてあはれ何と見んとも天士も亦容
 易に議せむ沈吟ど信乃がの事恐れ候御曹司尚総角々御坐せども御
 父祖少ありぬらけり智勇の御本性自然知りて目今の御説畏れも感服侍
 り候候の久も寄隊のいも當所不到然と今仇々城を離れ河を渉して
 找々敵と逆へぬ風を候くゆへにとる現八も膝を找めて成考が稟に美り思
 意も亦異るを臣等先前岸不敵を待て寄隊の來中一にて其強弱を先
 試ひん寄隊の勢ひ剛く候聞戰難義の折をて御出陣を請まらるべし
 られとの辰相點頭て義通不稟を御出陣のりも御説理のりもまゐり
 約軍陣の進退の豫館の御下知の事皆大氏不儘せりと定させぬひく權且
 御意を枉れぬ那議お就せぬと詞穩く諫れが義通只得信容も前
 議不従ひぬら大家其温順寛裕を稱へ欽さるるりけり介程不の地へ寄

て。隊の兩大將鎌倉の管領山内頭定前関東管領足利成氏並副將上杉
五郎憲房相従ふ其隊の偏將白石城八重勝齋藤兵衛太郎盛実
横堀史在村們と俱ふ五萬五六千の軍兵を將く。十二月五日の早旦五子子の城を
うちぬり水路を千住河の瀬り下總國葛飾郡海蟻の頭造と陣を程
這水陸の路次あり其地々々の野武士元民の勇あつて名を好む者或は跡を慕
ひ來り或は去向立迎へ皆頭定の隊に屬す。六月甲乙士卒四萬餘を勢ひ弥
振然と。徳而山内兵部大輔頭定の這日先間諜見と前所河の上遣て團
府臺の城の虚実を撈らるる敵の大將里見義通と東辰相後見して團府臺
籠城あり。従ふ兵四五千多べ。その他防禦使犬塚信乃犬飼現八杉倉直元
田税逸友們と俱ふ前所河をうち渉して五十四田の邊陣し。是亦其隊の兵
五六千多べとの事紛れもあらず。頭定隨即成氏と請招は重勝盛実在

村も召集へ。敵の動靜も箇様々々具不告。且の意も似たり。
這地の敵小勢へ他等尚一致して要害の據り。敵所を断室に俱ふ籠城して
我を防ぐ日損傷ありとの事も猶半月の柱を多べ。然る何ぞ今一萬の小兵を
分ちて河を渉して我を防ぐ。螳螂の車を避けて夏虫の火に入るふ似たり。我大兵一
たび蒞ま。一挙して伐破らん。石と卵を推ま。易くはべ。余のあれも嘗
聞く。那二大士等の奸雄也。且智術ある者あり。然るもの利害を知らず。漫河を
うち渉して水と背め。我を待ん。必計る所あり。那韓信が囊沙の術亦思ひ
む。い。わ。る。べ。く。故。我。逆。より。製作。必。勝。の。戎。具。あり。正。今。是。を。連。ね。他。を
破るべ。我嘗唐山古昔の軍旅と思ふ。周末戰國の時までも皆是車戰を宗と
せり。我も軍と云陣と云其字車に従ふ者然るを秦漢より後。敵亦戰
車を用せ。但三國の時諸葛亮孔明が四輪車に乗ら。古風も則る。似れ

とも用意戰車と同らるる我大日本の神代より軍陣に車を用ひ是を知る者
 ありとも今も那法則を推考し戰車を作り敵軍中ら非如堅陣鐵壁とも
 破れざることを思ひければ豫より匠を課し戰車を造り地を士卒の
 教を調煉已ふ事成り折憶を當陣の臨む及べ我鎌倉を折齋藤高
 実の吟附て件の車數百乘を伐れ組せ海に浮れり科草浦に在り今朝我
 船を推續せ漕せ當所所執寄る是見えと誇貌を説示し画圖取
 取出るやや席上より用げ成氏に村素の君臣の殊更の耳新し
 心地し膝の杖むと覺ぬまを齊一其画圖を見る車の高四尺也俗云大八
 車に似るるを二輛相連せり一車と開か上より欄あり是は相乘れる武者一十
 二名其六人の前在り六名は則後立て是中央の弓もや左右の則銃もや
 馬六足をのりこれを行む車の左右の兩個の御者あり鎗を披え鞭を執れる人の

けり馬も皆薄鐵の面罩馬鎧を透間もわを身不撥ける用心を困るるされ成
 氏並不在村の奇也々と稱讚を當下頭定便面とて畫圖を指示あり
 父や唐山の今も昔も馬車を架せ牽れる皇國を牛車のまや昔も
 馬を要せ然れどもよく習され我が邦の馬とて車と牽れるあはは壁北狄の
 狗兒より雪舟を牽る如く習ひの性なるもヨリ且馬の奔走神速を軍
 陣至用の物なる我馬の皆車を行ふ熟るると這回多く牽せると解れて成氏
 感して已まば史什麼と見られ在村も俱々感服して現未曾有の御軍の
 名を何と呼びやと問へ頭定含笑然りとて我這戰車を肇と造り果せ折命
 けり驛馬三連車とも則是馬を駢せ車と連て要を成を其議をのり左
 るもの因り我又意不甚西假名町新驛の間を或は左右の樹粒敏赤く或は左
 右の水田あり路一條ゆて衛垣と雪ぬ是我駢馬三連車を用はる究竟の地方

あま、明日の那里へ推せ。那二天兵衛を飼ふせん先之隊配を倣ふとて白石重勝を
 せん。明日の那里へ推せ。那二天兵衛を飼ふせん先之隊配を倣ふとて白石重勝を
 先陣とて、錐布五郎鷹裂八九郎と其隊の副と成氏則後陣と、許我老
 黨横堀在村新織素近臣科草七郎望見一郎を是の從ふ總大将頭定
 副將憲房一萬五千の士卒とて、其中央在り又齋藤盛実を駢馬三連
 車の總轄とて、調煉熟得の雄兵二千五百餘騎を以て進退宜く機臨
 敵と數を破れを下知せける。摠軍約莫四萬餘名十二月六日の早旦、瓶蟻より
 推出して、新驛假名町の間を曠野を造りて陣を、人の勇と馬の嘶と鬼の星の
 晃れと、曉残る而相赫、亦氷做と刀劍の毛骨、竦然寒風、殺氣中天を掩
 ふる。威勢破竹、小異る。泰主八十餘萬の大兵、長く駈り江を渡りて、東晋を吞
 まく欲き。那時、も似る。今程、五十四田の陣、敵と待り、大塚信乃、成孝、大
 飼現八、信道、夙、斥候の注進、因り、寄隊の大將頭、成氏、總軍四萬の

大兵を以て、昨日瓶蟻、小着陣、あるも、今朝、假名町の邊、推し、來つべし
 とも、既、其、告あり、信乃、隨、即、現八、と、商量、して、且、直元、逸友、等の、諸頭、人、の
 其の、長を、示さ、信乃、が、い、寄、隊、四、萬、五、千、の、大、兵、自、家、の、士、卒、と、比、且、僅、小
 是、何、が、一、奇、と、是、を、破、ら、ま、全、勝、と、さ、る、べ、し、王、者、の、軍、の、敢、奇
 偶、を、倣、ふ、と、仁、人、君、子、の、敵、を、遇、る、も、德、地、を、是、我、君、の、御、本、意、左、ま、れ
 右、ま、れ、中、一、中、敵、の、剛、柔、巧、拙、を、試、し、倘、勝、と、り、退、き、計、る、も、遲、延、は、あ、ら、な
 我、陣、新、驛、假、名、町、の、間、を、左、右、水、田、あり、林、原、あり、路、一、條、を、廣、く、ね、大、軍、は
 進、退、の、必、不、便、る、寄、隊、其、里、を、推、半、て、我、を、誘、引、し、欲、ま、る、情、地、不、計
 る、所、あ、ら、な、非、如、閉、戰、勝、を、乘、る、も、漫、功、を、負、り、て、必、逃、る、を、計、ら、な、防
 る、所、あ、ら、な、要、と、倣、ふ、後、至、り、全、勝、と、先、よ、の、意、を、必、ひ、ね、と、言、叮、寧、に
 敬、言、れ、直、元、逸、友、等、皆、兼、服、を、其、隊、配、を、從、ひ、け、德、而、這、詰、朝、信、乃

現八木茂と敵と逆んさう杉倉直元を先陣とて國府臺の守城の小頭人
ける。潤就鳥の子内振照俱教二と副とて隊の兵二千餘名の將を又田税逸友
兵一千と從せ遊軍とて直元們的次在り。信乃現八木各一千餘名と俱
後陣を續ける。介程の葛西新驛假名町の邊で兩敵夙相臨と送不戰
鼓とら鳴り。且箭と渡り鑊砲と連放り。挑戰の程もあらず。寄隊の先陣
白石城介重勝の敵の小勢と見え破るふかたなきあり。と思馬土上麾ら揮
兵毎枚めと雪得共其左右小頭人雖布五六郎雁鳥裂八九郎鎗
拈り馬を馳り數千の隊兵共侶不競る。虎彪の勢當るべくもあらず。と
杉倉直元毫も怯まざる。子内俱教二相共隊兵齊一駈合せて。陽の閉
閉る魚鱗鶴翼隊を乱し。射れども突けども物もせざり。刀尖鋭りければ寄
隊の憶を殺顔され。一町許退くと直元の敢赴む。豫信乃が放言あれ馬を

駐め士卒と制して姑且息を吐く程。去向の連る柱樹の林陰より敵の暗號と
かひく。夷然として四下小响く。鑊砲の音と共推れと出ま。頭定の準備は奇巧
愆を云駢馬之連車と發棄とる。牽菟々々直元們の一隊小向いて。弓箭鑊
砲透間も。路と塞が。攻寄まれば直元の子内俱教二們的驚駑る。今も
引退んぬ。俱小士卒と励む。力を勸めて防戦の程もあらず。寄隊の
先陣白石城介重勝の機を見て。夙取て返り。雖布雁鳥裂共侶車戰を
幫助て攻んと。登時里見の遊軍も。田税力助逸友の爲体。心慌て隊兵を
找め。直元と援けて。戰車と數破らんと。憚る去向の茂林の裏より。又推出
敵の戰車。憶を路を遮られて。一步も找むと。口得前も車も逆ひ。敵
退げんと。角へも。又推半。推出ま。車極め。多れ。逸友の隊兵と俱。前後左右
圍ま。出死路のり。けり。況や杉倉直元の潤就鳥振照二士と俱。口其駢馬之

連車小鏡壁の像く囲れて前中り後拂ひ右を遮り左を返せど齋藤盛実修
煉してより車を行るのまを車上の雄兵油者も連車齊一の機稱ふ
弓箭鉄砲の透とせ近つ敵を鎗て殪し。爰より蒐れが盾の隠る。進退
精妙奇兵の術直元が二千の軍兵及逸友が一千の隊の兵さへ拘れ。面を向ふ死
よりも身口敵の的の成りて。瘡を負ふ者も多かりける。有徳一程の犬塚信乃
犬飼現八を相距ると二三回備を建く後陣在り寄隊戦車の奇巧をり
自家敗軍及ぶ事の勢ひも駭然と信乃の現八を招けていさう。今直元逸
友們を救ふ欲する路一條あり廣く横鎗を入れがかり。箇様々々小計
ひてん續にぬといそがり。馬上の鎗と挾と一千有餘の隊兵をわく。胡意明々
地小大略と適るを側の茂林ふら入る。敵の戦車の後ふ出さう。ち破れんと走
る。後方小續く現八も隊兵一千百十數名樹柱も路の凸凹も擇まをいそぐ騎

馬歩兵後ろ者へるたのう。信乃の真先馬を找りて夙く戦車小近つ程小
齋藤盛実其機を查く。茂林の盡る路と横断る。其隊の兵二千余伐
んと備へし。信乃のうら見て毫も機謀せを群る敵馬乗入る。鎗の尖頭を
電光の品小碎る勢ひも従ふ士卒も死と見え。踏入々々攻麻非け。刀頭銳
く収められ盛実の隊兵と俱小憶も辟易して其路颯と閉け。信乃が
一隊の衝と走脱て逸友們が圍れる。數十乗る車の後より。車上の敵を
斫落し。馬を斃し。車と摧く。勇士猛卒力と勅せ。と盡る。揮ふ其一
方と殺類され。敢近つ敵を退く。死路閉け。當下信乃の聲高
やく杉倉田税自餘の人々。益の閉戦さへ。我小續けと喚り。隊兵を
困め。決然と人死衛を立出さる。人死御小還る。如く。敢憚る氣色をけ。於
直元逸友のへら之潤就鳥る古内振照俱教二両隊の士卒の氣を以て

復生し。と欲ひの瞳と旋して退れ去る。白石重勝見らるる堪。錐布鷹
 裂と共侶。又只戦車と推找めて追敷き。欲する目今信乃。打摧れる車
 横り人馬轉輾。戦車自由。轡ら。亟に趕ふ。と。今程。大飼
 現八信道。剛才齋藤盛実。大塚信乃。推破られて。不覚。他を過せ。
 恥をやる。思ひ。怯れ。隊兵を装返して。猶も趕ま。欲せ。と。を。れ。は。ら。と。
 喉をく。馬を真先。走せ。隊兵を找めて。殺立。盛実。隊の兵。と。い。も。
 又現八。千の雄兵。敷敷。散されて。備班。お。做り。一。六。現八。竟。盛実。と。鎧。と。合。せ。
 一上。二下。と。戦ふ。久。一。盛実。已。勢。究。り。鎧。と。真。哩。と。敷。落。れ。て。怯。む。
 現八。衝。と。寄。り。馬上。生。拘。り。脇。脇。引。着。け。左。も。抱。は。く。動。せ。信。乃。力。を。勤。
 せ。と。と。儘。大。路。出。時。寄。隊。の。先。陣。重。勝。們。信。乃。損。れ。破。車。と。人。馬。の
 屍。骸。を。雜。兵。も。遣。棄。ま。さ。其。路。才。用。り。亦。復。戦。車。と。推。出。と。信。乃。

們を趕へ。とい。程。現八。を。脇。路。より。咄。と。嚙。見。れ。勇。士。猛。卒。大。刀。風。
 當。る。う。も。あ。ら。り。寄。隊。の。士。卒。驚。れ。噪。れ。逃。れ。と。ま。る。と。白。石。重。勝。鷹。裂。八
 九。錐。布。五。六。怒。る。聲。と。震。立。と。逢。一。兵。毎。小。勢。の。敵。然。も。怕。る。と。も。早。く
 戦。車。と。牽。き。捕。網。て。皆。敷。ま。と。連。り。嚙。罵。励。せ。駢。馬。の。車。兵。御。者。雜。兵。是。も
 氣。と。許。多。の。車。と。遣。被。々。鍊。砲。を。發。ま。と。構。る。現八。見。つ。冷。笑。ひ。て。若
 們。等。是。を。知。ま。我。方。僅。本。路。之。生。拘。る。這。社。伎。是。若。們。頭。人。を。今
 倘。酒。家。敵。對。せ。先。這。奴。首。辰。斫。後。若。們。を。血。せ。我。を。誰。と。累
 ら。心。見。殿。の。御。内。で。然。る。者。あり。と。知。れ。る。犬。士。の。隨。一。大。の。地。の。防。禦。使。犬。飼
 現八。信。道。も。我。身。不。佩。る。靈。玉。あ。れ。ば。弓。箭。鍊。砲。も。中。る。と。く。刀。劍。も。傷
 ら。れ。然。る。と。若。們。印。札。の。輩。救。心。不。虎。鬚。と。掖。も。欲。せ。同。士。敷。も。似。く。這。奴。を。殺
 さ。ん。い。ふ。を。と。罵。哮。り。盛。実。を。抱。り。儘。小。兜。の。眉。廂。推。仰。反。せ。と。指。示

其吐嗟と驚く寄隊の衆兵就中白石重勝の慌々隊の頭人と錐布
 雁鳥裂們を招びていさ。他を見ま。敵の為小掠らま。那壯伎の紛ふも
 あらぬ當家權宰齋藤左兵衛佐高実の家子。齋藤兵衛太郎盛実
 多と疑ひ。盛実の故あり。館の鐘愛大なる。今現八を撃捕
 とも那寵臣と亡ま。館の怨とあべ。惴りさせ。と解諭せ。錐布雁鳥
 裂頭人等諸兵供へ。敢動を車添。儘ふ。皆睨く在り。現
 現八。然も。と。笑ひ。聲高。若們知。里見殿の世。早。死
 仁君。又我職分。防禦使。當の敵。あら。殺。其。這奴
 安房へ。還り。我兩館の御旨。依らん。先々。の。願。下。知。隊の
 兵を先。卒。馬。疾。犬塚。追。就。ん。と。五十四田を投。退。去。
 寄隊の士卒。勇。不。勇。只。這英氣。何。容。と。長

視て居。敢。敢。著。る。り。小。程。山。内。頭。定。の。戰。車。の。進。退。其。圖。當。り。
 一旦。其。利。あり。犬。塚。信。乃。小。敷。破。れて。先。陣。重。勝。們。が。既。敗。績。の。や。え
 刺。齋。藤。兵。衛。太。郎。盛。実。の。犬。飼。現。八。虜。者。を。お。と。去。ま。と。知
 怒。り。小。堪。ね。一。兩。時。も。あ。ら。萬。騎。先。後。陣。より。馬。を。走。ま。せ。あ。小
 來。猶。其。顛。末。曾。向。索。重。勝。並。錐。布。五。六。雁。鳥。裂。八。九。諸。頭。人。們。
 信。乃。現。八。が。獍。雄。る。他。們。の。里。見。の。先。鋒。の。兩。頭。人。杉。倉。直。元。田。稅。逸。友。の
 敗。軍。を。援。る。小。間。道。より。不。意。小。出。戰。車。小。横。鎗。を。入。れ。ひ。路。陝。け。は。大。車。に
 進。退。敢。又。自。由。る。且。三。連。車。の。總。括。盛。実。の。那。茂。林。の。頭。人。現。八。奴
 虜。小。せ。れ。戰。車。小。頭。人。あ。ら。做。り。小。那。現。八。を。追。伐。友。盛。実。を。殺。さ
 思。ひ。小。士。卒。を。制。め。御。指。揮。を。請。ま。り。異。口。同。調。小。陳。ぶ。を
 顯。定。听。ら。聲。苛。立。と。分。説。小。話。こ。ち。吸。陝。け。は。を。究。竟。わ。を

風く戦車を先へ推さむ。他們が歸路を遮らば我大軍後より差披と攻
甘く且盛実をこそ復して敵を斬ふ。小勢の犬士も氣を天を阿容
阿容とて盛実を極むる事と不覚なれ好く他們遠く去り我追蒐く伐
捕りてんと敦圍に暴く罵る程小成氏も亦在村素の老黨士卒を従
へ共侶を取らば。隨即事の趣を以て。顯定を寛解する事。那犬飼現公
我舊臣の罪ありと赦して信乃を捕捕せむ欲せし反て信乃を相討け
俱亡命あるべし又大塚信乃の曩小村雨の質刀を以て我を欺き欲せし
るを。刺那時我將我の館を開せし。多く士卒を害ひける兇奸を頼の
るれば捕へる罪と正き思ふ久かりける。一霎時那奴等と敵不令と對陣其
堪がさか。今より酒家先我を。犬追物の故実の。獵箭を被く射く。驚え
いでくと遽に。在村素の。隊兵を繰替へ。みづから真先

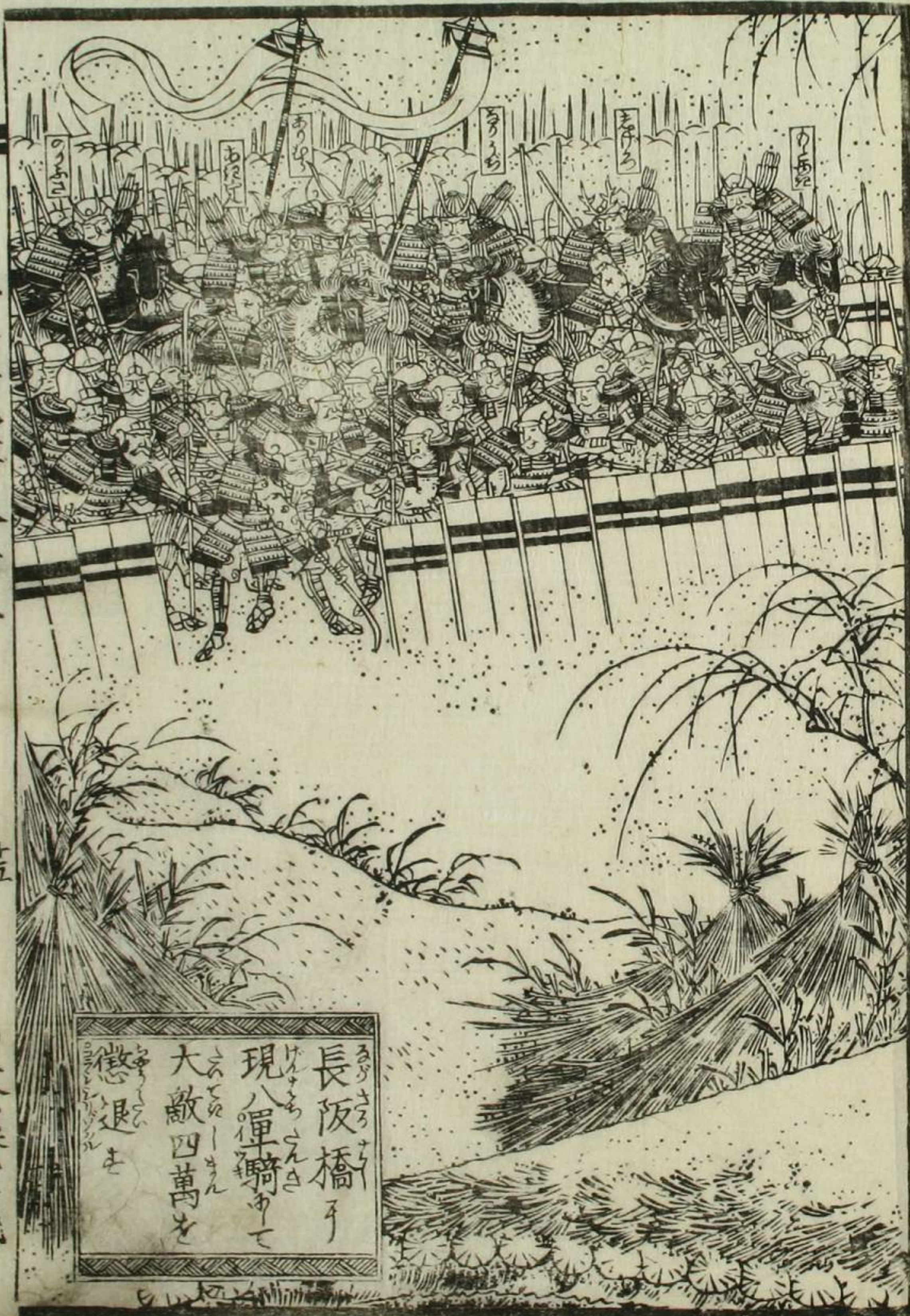
我むと顯定是を勇と譽む。則白石重勝と錐布五六鷹列衣八九等と
召近づく。若們も亦先我を。許我殿を相幫助く。俱先度の恥を
雪め。その罪亦不覚の擗め。其罪決して赦し。か。の。と。苛立れば
大家忻然と言美あり。時を移して成氏と隊兵を合せて。現八信乃と擊捕
んと。戰軍を牽蒐く。夷然とて。趕ふ程。顯定も亦憲房も士卒を率
陸續。總軍約莫四萬餘名騎馬の。步兵も後れ。の。勢。只暴
波の磯打ち如く。五十四田を投て。趕ふ。時犬飼現八信道の。既。寄隊の
衆兵を思ひ。隨小權徳。五十四田の陣營。小退。當時假名町の茂林邊を
距ると約七八町中。徑二丈許る小流あり。土人。是を長阪川と喚做
たり。長阪村に近ければ。其水原の遠く。の。猴股河より引りて。来て。田甫の
用水。小。加。の。地橋あり。長阪橋即是なり。問話休題。然

現八も這橋の上まで退かぬ時權且馬を推駐め、挾む齋藤盛
 実を士卒も遞與し、却隊の小頭人們を馬の左右に召さる寄
 隊の先陣白石重勝、我も我も權さね、追討せしめ、頭定必
 然怒り、大軍を招き、追討せしめ、我生拘り、其壯校を、知る者ありて
 生口を聞き、他の齋藤高実の家子にて、齋藤兵衛太郎盛実と喚做さ
 者即是、初頭定、危從して、龍湯の寵あり、今も其餘波を、重く用ひらるる
 然、頭定、他を惜みて、復さず、欲する、非如頭定、戰車を、去向路を、断ま
 こそ、豈、怕る、不足る者、我猶、一霎時、お待て、來ぬ、敵を、推退、然、然、とて
 多勢の要る、汝達、其生口盛実を、隊の兵、毎、牽せて、皆、共、侶、退り、是、是、れ
 趣、疾、犬、塚、報、知、せ、我、還、る、を、待、ね、大、塚、必、城、入、ら、戰、車、を、防、備、を、做、え
 其餘の、箇、様、々、と、意、束、を、示、さ、究、竟、を、士、卒、千、名、を、這、里、在、せ、せ、

兵の従ふと、饒さ、定、現、八、が、大、胆、を、い、ふ、も、や、思、ふ、心、許、る、所、約、れ、る、
 否、との、い、ふ、さ、か、あ、り、大、家、只、得、心、を、あ、り、却、盛、実、を、牽、引、五、十、四、田、を、投、て、退、
 去、る、を、現、八、一、霎、時、目、送、ら、則、馬、の、左、右、在、せ、雄、兵、三、十、名、指、示、せ、
 若、們、皆、先、那、里、見、よ、這、里、を、距、る、一、二、町、那、里、の、路、の、左、右、の、処、を、掛、巨
 たる、敗、稻、塚、多、く、の、敏、帝、り、立、る、細、竹、の、冬、樹、の、小、木、林、雜、る、は、是、我
 兵、も、用、ふ、べ、究、竟、の、地、方、若、們、の、い、ふ、く、鑊、砲、と、携、る、稻、塚、小、木、林、の、裡、に、
 敵、の、追、蒐、來、ぬ、を、俟、ね、寄、隊、戰、車、を、先、引、那、里、ま、で、來、ぬ、我、を、見、
 疑、ひ、惑、ふ、躊、躇、ふ、折、我、任、と、喚、る、を、暗、號、し、左、右、齊、一、大、銃、を、
 發、ち、戰、車、を、擊、破、り、孫、寄、隊、必、驚、に、慌、る、一、旦、退、く、敵、退、く、追、
 ぶ、若、們、の、折、早、く、引、揚、る、我、俱、一、五、十、四、田、へ、還、ら、ぬ、今、我、方、計、
 る、所、大、く、差、在、べ、胆、を、肥、て、怕、る、と、比、皆、よ、く、せ、と、解、諭、せ、大、家

礙議せむ其意をゆる。別まて件の物蔭に躲れ敵を俟けり。憊而那
身は只一騎自若とく橋の邊に在り。現はる見打扮の草緑絨のれは
鎧ふ龍頭ある五枚兜の緒を締る。猪頭ふ戴は石青の故金襴の戦袍套ふ。
黒金装の大刀戒刀柄の匕首と腰に跨へ細目細鏢の針十王頭の脛衣も夏
曳の上總麻の重底の戦鞋の締高を。短短の穿做る。驪馬の太く逞し
糸の深絳の厚總無き。貝錦の磨鞍ふ白と此糸と漆合ふ。腰鞆も寛ふ
うち乗り左も右も刃尖の鎗の丈二柄を挟み。前面を位と見目した馬
上の居長最高く其武者態九膚を。臥蠶の眉丹朱の唇有眼の雙魚
星の如く齒の飢の突ふ似。唇の色の淡黒く。髯の迹々蒼りける。這個蓋世大丈夫
夫南總八大隨一人里見氏股肱の俊傑とのりでも知る。死面魂坡堤の世花
霜の枯れて招くとも。寒風馬の息遣を避く吹く。威風正可凛然と。介程の

寄隊山内討我の両老黨白石城に重勝横堀史在村に先鋒二連車の
頭人。錐布五六鷹鳥裂八九新織帆太夫が幾千百の兵を。馬を趕せ
車と轡せ那二天士を捕籠て。血みせんとく。間を離れ。俱小馬を。早め。係
二隊の軍兵二萬餘騎。又是加ふる。兩大將一副將。頭定成氏。憲房も
各其隊の士卒と。找る大兵都て。四萬餘名。長阪川近く。ある程。先鋒の
隊長重勝在村に。あふ。至り。士卒と。共ふ。それ。前面。ある橋の邊。甲甲目。さる
武者一騎馬を。這方。推向け。端然と。一。敢動。を。其鎧の。絨色。の。紛ふ
べく。あ。ぬ。ま。ご。我も。士卒も。認得。ある。現。八。さ。思ひ。ふ。他。の。什。麼。と。さ。り。不
御者と士卒と。喚禁。め。車。と。些。推。戻。さ。せ。止。々。と。な。ら。不。敬。言。れ。錐。布。五。六
鷹。鳥。裂。八。九。又。新。織。帆。太。夫。も。衆。兵。都。疑。惑。ふ。眼。と。睜。り。息。を。籠
あ。敢。一。歩。も。找。む。者。を。開。が。中。の。白。石。重。勝。の。馬。を。横。堀。在。村。の。身。邊。に。乗



八代傳九軍卷三十八

十五

○文英堂藏

長阪橋下
 現八軍騎中
 大敵四萬を
 懲退す



八代傳九軍卷三十八

○文英堂藏

はら

文英堂藏

よきうち向ひて和殿いふ思ひぬる那現八が口一騎那里に我大兵を誘引し
欲さるる必是計畧ありん然るも漫に推蒐く猶又失あるる再犯の罪を
争何んせんといへ在村點頭然りとてそのまゝ那大飼現八奴が梟雄なる本
事の豫我より知ぬ一騎へと侮るべしと平西大將の御旨を伺ひ疾後陣
へといそぐ程に顯定成氏憲房も大兵をわくあふけられ重勝と在村の馬より下
立相迎へて俱に後方を見えりて遙に現八を指し示さく其進退を請問
顯定成氏憲房の俱に馬上の頸を伸し望むと半响許疑惑の眉を
顯卑るのこころありて成氏の尋思不憶ぞ傾けし頭鎧ふもと日緒を締
顯定に向ひていふや那奴の咱等が舊臣なれば心術本事知ざること非如今少
許の計畧ありとも由察の衆に敵さるる戦車と先轉し蒐て敷く六勝
ざるそとあらんと憚ると顯定推禁めり開る勿論のゆゑに見ぬ那里小

川あり現八橋をうち渡して那方の岸へ退く戦車を行る甲斐ありといふ
憲房も俱にいふや加以那圮橋の最小ゆゑ危はるる車と遣ふ中絶ん那
奴の其地の利を據りて我を侮り遊ぶる憎さも憎しと敦園の二將隊
長諸頭人重勝も在村も雖布五六雁鳥裂八九士卒も俱に思難く皆計の
ある所を知ると徒然然と口を鉗き不覚の時を殺しけり有徳り程に大飼
現八と豫て計りし所を差むる寄隊四萬の大將士卒戦車を引く先小建
那里まで来て敢て我を俗に云不動の禁郷縛然らむ林示足の祈禱の遇
る衆狂人狹群盜異なるべしと現八然りとて含笑程を料りてうち
見て在り既ゆ寄隊の大兵隊伍を乱して相叫者よりけしと現八遙に
相濟しと鎧踏張り鞍局小立揚る聲高や寄隊の人々疾蒐けしや
許我殿の御内中倭人在村を首ゆ我を認れるもヨリ今更其名告るの

要るけれども山内殿の初見参へ我姓名を笠表に寫して各護身符にせよ。
昔の時我の一小卒其罪小あつた久く縲綑の中在り身の陪王下相
撰擇不逢々今千里見の防禦使る大飼現八金碗宿祢信道を即
我に寄隊四萬の衆中恥を知り名を惜む勇士のた然猛將のあつた只
是一騎の敵に怕れて進む者なれば其麼を疾く敷ねと喚れ成氏憲房
怒りゆ堪む俱に采配うち揮く蒐れくと先鋒を罵る其聲遅し那時速
左右の隈ある小森林の蔭敗稻塚の透より大飼が隊兵の齊一控と
發出と二三挺の大銃を寄隊の戦車七八乗車上の兵も御者馬さへ俱に
塵粉を打摧れて免る者あつたけれが恙るる士卒も胆を潰して苦と叫ぶ聲
共侶の帆大夫の憶を鐘を踏外して馬も控と墮半の衆兵都て吐と頰れて引板
驚く群禽の激と立像と逃く先鋒の頭人後陣の三將重勝在村の成

氏憲房頭定にあつた何と云ふ勢に林を據もる。辟れ蒐り一躬方の為を推
戻され罵るの心ともる乱走し。假名町まを退ける意小飼現八が
日の進止勇る哉昔漢末三國の始方りて劉金皇叔玄德が荆州の関戦敗れ
曹操が百萬の大軍を逐れ時劉備の勇將燕人張飛が身只一騎馬を
駐り長坂橋の上あり其百萬の敵兵を罵退ける其勇一對橋の名さ相似
たる事の勢愉快を見む和漢今昔異なる前視われ後筆るはあつた着
官坐合笑れ。後回誰何と思ふあべ。問話休題登時大飼現八も四萬の寄
隊立足もる車を棄鋒を倒して逃一人もあつた伏する隊兵を招よと
る。隨即二十個の雄兵を又鎧砲を携り物の蔭より歩く進化至妙と散動
く。現八急喚近つて若們那圖を差さける棒は極めて好那見よ寄隊の
棄る戦車猶那里も皆打摧れ馬を奪略る。後戦小其利む然

の小兒を憐れ真元の氣を補養しに漸々小胎毒を下し蟲を平治物驚き候止さる氣根
 を強く成長の後記臆をよきまらみ疑ひあり元來無病延命ありとめんと思ふ大願を
 先祖の代より當今予及びはまを古く世上小知らざる此妙業成猶も昔く
 絶ふ小功能のありき候告はりまらみありぬ必も利欲のためふまら賣業と興め
 小兒の病の苦痛を救ひ壯健長壽の喜悦を興えあひ終る

主治 ○まほうふう○ふかん○たいたく○たうさう○はろく○ひー○まひやう○がんびやう
 大畧 此外の統系小兒の万病に

御免 製衣藥所 小兒科 大和氏門司法橋精製



- | | | | |
|---------------------|---------------------|-------------------|--------------------|
| 京都堀町六丁目
吉野屋勘兵衛 | 江戸橋山町二丁目
松本屋長藏 | 尾州名主屋舟八町
中屋久兵衛 | 江州日野大久保町
西村市右衛門 |
| 大坂春橋通博芳町
河内屋茂兵衛 | 同日本橋室町二丁目
鐵屋八右衛門 | 奥州仙臺大町
熊谷屋善兵衛 | 下総佐原橋本
正文堂利兵衛 |
| 同江戸堀二丁目
播磨屋弥七 | 同本郷二丁目
太田屋武兵衛 | 上州桐生五丁目
石井五右衛門 | 勢州末各片町
日野屋藤兵衛 |
| 東都大博馬町三丁目
丁子屋平兵衛 | 同小舟町二丁目
大友屋太助 | 信州上田柳町
鹽田屋佐之助 | 東海道川上三町
三原屋清助 |

